

九州連合会合宿アンケート結果 最終

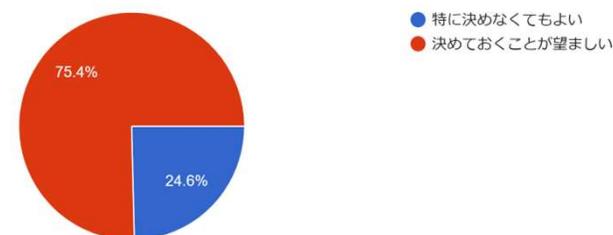
調査期間

1回目：11/7～11/14

2回目：11/21～11/28

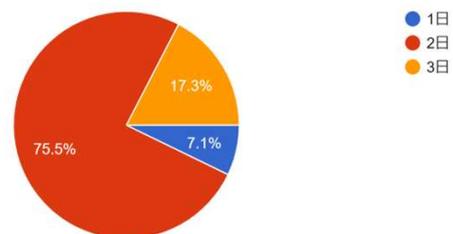
質問① 合宿形式（2日間・3日間）の基準や要件の明確化と推奨形式の提案

130件の回答



質問①にて「決めておくことが望ましい」と答えた...お聞きします。望ましい日程をお選びください

98件の回答



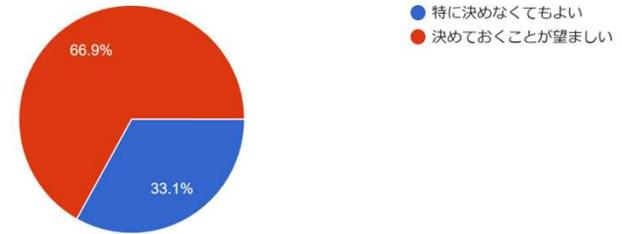
質問①に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）27件の回答

- ・受講生の話聞いてみると現状は、大きくは過去の開催内容に沿って行っているが、各県でばらつきがあるようにも感じます。各県の合宿出題内容と日程を決めていくことで、2次試験対策である合宿に参加し、模試感覚で受講生がどのレベルにいるかを把握することができるのではないかと思います。
- ・2日までとして、一日目午後～二日目午前くらいを基準とする。
- ・座学はWebで行い、鏡検実習のみ毎年アクセスのよい現地（福岡）開催で行う。開催場所は毎年同じ場所、開催担当県のスタッフがその場所で行うようにする。
- ・9月～10月の期間の3連休を利用することで参加しやすくなるので。
- ・試験模擬としての合宿なのか？知識習得のための合宿なのか？により日数は変わると思われます。前者であれば模擬試験のように二日間でも模倣出来ると思うが、後者であればしっかりとした解説と鏡検のためにもっと時間を作る必要が生じて来ると考えます。そうなると二日間では足りず、三日間になると思います。
- ・例年9月の3連休で開催されていますが、台風の時期でもあるため開催時期を早めた方が良くはないかと声を聞いたことがあります。
- ・できれば1日など短い期間のほうが望ましい
- ・予算の明確化、自然災害（台風など）時の対応も明記して頂きたいと思えます。
- ・講習の内容は試験の形式を踏まえる必要がありますので、それに沿って予めガイドラインは決めるべきと思われます。ただ、沖縄の場合は参加者自体も予定定数に足りない場合もあります。企画自体が経済的に破綻しやすい地理的要因を持っていますので、補助金の割り増しや形式に工夫が必要なのではないでしょうか？沖縄に関しては一定のガイドラインの適応からある程度外すべきだと思います。
- ・2日としたのは、一泊2日という意味です。
- ・充分な時間をかけて多くの症例をみる機会であるため
- ・実際の試験形式が受講生の為になると思います。また、希望者全員が合宿に参加できるように工夫をお願いします。

- 1日では短い。3日ではスタッフの負担が大きい
- あらかじめ決まった形式があれば運営側の負担軽減になると思う
- たくさんの標本を見る機会がない受講生には2日では足りないのではないのでしょうか。
- 1日では十分に出来ない。それより長いと疲れて集中出来ないと思います。
- 縛らず、自由にすれば良いと思う
- A 準備する人のために決めたいと思うし、B 3日間に十分な普段見ない分野の標本を見たい人がいると思うから。C しかし準備する人はたくさん集まった方が負担が分担されると思います。
- 1日を選択した理由は台風等で中止になり宿泊キャンセル等が起きえないようになるから
- 準備担当県の細胞学会が決定することが望ましいと思います。
- 参加者の都合や内容を考慮すると2日間がちょうどいい
- 参加人数や講習内容によって決定すべきである。合宿廃止論が出ている現状で1日のみの開催の可能性も模索すべき
- 合宿内容、全般にわたって合宿内容に関しては開催県の都合に合わせれば良いと思う
- 3日欲しいところですが、永くなるとダレますので、2日間で徹底的に行う方が効果があるのではないのでしょうか。
- 近年の感染状況もありましたので、その時期にできる日数でやるのが良いと思います。
- 日数ではなく、最低限盛り込んでおくべき内容（受ける側がシラバスの参照できるような）の規定でいいのではないかと思います。
- 9月開催は、台風の心配がありますので、別の月に開催するのはいかがでしょう。

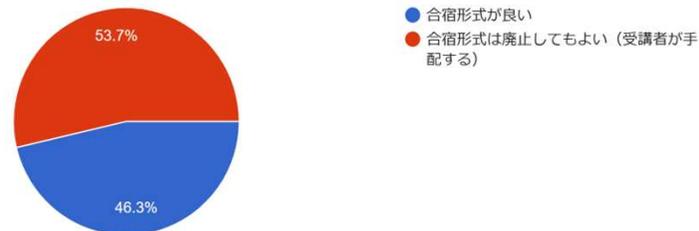
質問② 宿泊込みの合宿の可否（受講者手配の検討）

130件の回答



質問②にて「決めておくことが望ましい」と答えた方にお聞きします。どちらかを選択してください

95件の回答



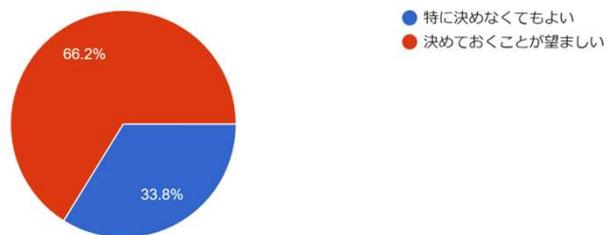
質問②に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意） 32件の回答

- 様々な研修会等が開催されているが、殆どは各自で準備をするものが多い。ただし、「合宿」という名称からは、ずれているかもしれません。
- 試験対策として必要なことに絞って内容を構成すべき
- 沖縄合宿の際受講生で手配したが道中も含めて大変だったので
- この企画の名称も変更で。
- 合宿のほうが時間が有効に利用できるから
- 合宿形式にしてある程度の縛りをつけることでキャンセル率が減ることが予想されます。宿泊手配などの手間はかかりますが、現場の準備の事を考えると当日の人の入れ替わりリスクは減らせると思います。ただ、主催者手配となると料金的に高額となるため、参加者への負担は大きくなるでしょうし、送迎手配による予算もかかってきます。また同一施設の空き部屋が確保することが困難という問題も発生してくるでしょう。なので基本的には合宿形式が良いと思いますが、時代のニーズを反映させることも必要かと思えます。
- 日帰りが可能であれば、日帰りでもできる運用がいいのではないかと考える
- 過去の経験から、宿泊手配（バスの手配等含む）は開催担当県の負担が大きい。
- 合宿形式にするのは食事後の夜間セミナーなどの企画がセットであるからだだと思います。以前は懇親会と称して深夜まで飲み会があったとのことですが、翌日は疲れて十分な研修ができなかったという声も聞かれます。受験の手助けという観点からは受講生が本当に望んでいるとは思えませんので、現状では廃止するべきです。もし、合宿形式をとるなら受験生ファーストの企画にするべきと思われる。
- 講師と対面で話ができるのが良い
- ナイトセミナーまで考えると合宿形式が良いと思うが、昨今の物価上昇に伴い、全県同じ価格帯で実施するのは難しいのではないかと思います。

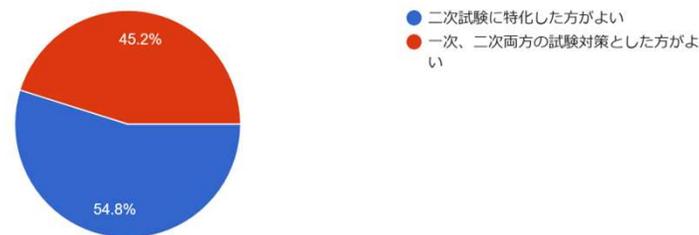
- 宿泊ホテルの手配は、開催する県の方々への負担が大きいのではないのでしょうか。
 - 基本合宿形式で、担当県の受講者（会場付近に在住）は通いでも可としてはいかがでしょうか？
 - 相部屋で睡眠不足のまま2日目に降迎え体調が万全ではなかったので合宿形式でない方が良い
 - 合宿形式は廃止するとしても、希望者への宿の手配は必要かと思えます
 - 宿泊費が高騰し、参加費自体が高額になる可能性がある。若い技師には負担となる。
 - いろんな人と懇親する機会が持てるから。
 - 合宿という形式は今後廃止する方向で検討していただきたい。合宿は準備作業にあたる開催県スタッフの負担が大きいく、ガラス病本の借出し手続きから返却までの管理、感染機会、台風等自然災害への遭遇など主催側、受講者側ともにリスクがあります。また、このようなリスクを冒さずとも、各県単位で行う勉強会等で十分代替できるものと考えます。細胞診の黎明期に合宿が果たした役割、効果は大きなものがあったと思えますが、すでにその使命は終了したと考えます。今後も連合会の定例行事として研修会を行うとしても、質問④にもありますようにウェブ形式で代行したり、連合会学会時にサテライト形式で受験対策講習会を行ったりするのもよいのではないのでしょうか？合宿を行った九州細胞診研究会が母体となって連合会学会が設立された経緯は理解しますが、今後も連合会学会をあげてCT試験対策に注力するような必要性は低いものと感じます。
 - 縛らず、自由にすれば良いと思う
 - 基本は合宿だが、希望者は自身で宿泊先を手配してもよいのではないかと
 - 安くなるし、夜は遅くまで討論し 受講者同士、講師の人たちと知り合いになれるし 将来学会での再会にも有効に働く
 - どうしても泊まりで行けない方もいらっしゃると思うのですが、泊まりありきじゃないとできないのでしょうか。
 - 正直どちらでも良い。
 - 合宿会場にて夜まで学習することができる為。
- 開催側の負担軽減のため、各自で手配していただいた方が良いと思われれます。

- 基本的にはナイトセミナー込みの合宿形式が良いと思いますが、宿泊を強制しなくても良いかもしれません。あくまでも受験生の自己判断で。
- 1日のみの開催が実現すれば当然合宿の必要はないと考えます。
- 本来であれば3日間ほど時間が欲しいところですが、永いとダレますので1泊2日で、たっぷり2日間は細胞診一筋で行う方が効果的だと思います。
- 宿泊込みの方が出張申請がしやすい。合宿形式で懇親を深めると将来役立つ。
- 移動や集合時間の変更など、伝達しやすいし、ナイトスラン開催や親睦などが深めやすい
- 開催地によっても環境的制限があるでしょうし、「二日目はオプションコースです」という企画等があってもいいかと思えます。
- 個室の部屋が好まれると思うため

質問③ 二次試験に特化した合宿は可能なのか否か
130件の回答



質問③にて「決めておくことが望ましい」と答えた方にお聞きします。どちらかを選択してください
93件の回答



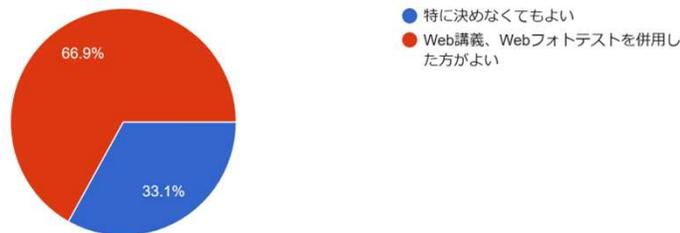
質問③に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）26件の回答

- 写真や解説書などがあり、同定やスクリーニングにも1次試験の写真問題に共通する部分があるので、とくには1次対策は必要と感じません。
- 1次試験対策は個人でも可能ですがフォトテストや筆記試験問題の解釈なども必要と思われるため
- 個人的には両方の試験対策とした方がよいが、先述したように合宿の開催日数に左右されると思います。
- 1次試験の解説や出題傾向を教えて貰える場があると受験者としては非常にありがたいですが、開催県の負担も大きく増す懸念があります。
- 実際にスライドを見て試験形式で実習することは大事ですので、細胞診研修会という名でその場を受験生に提供することは学会として必要だと思います。違った形での1次対策も必要と思います。
- 筆記試験はともかく、細胞像試験対策は実施した方が受験生の方々には有意義かと思えます
- 2次試験に特化したら、新卒で受験資格のない技師が勉強する機会が限られるため、広く細胞診を勉強する機会にして頂きたい。
- 2次試験に特化した方がよいですが、フォトテストは入れた方がよいと思います。
- 1次対策はあった方がよいから。
- 受講者は本番さながらの模擬認定試験を受けたいと望んでいます。
- 1次試験対策は個人でできるが、2次試験対策は施設により差があり、標本確保が難しい。
- 準備を担当する県にバランスを任せて良いと思う（決めてしまうと義務が生じる）
- 1次試験対策は自分でできる部分もあるが、2次試験と関わってくる部分もあると思うので少しはしておいた方がよいと思う。
- 初回参加、初心者がいるので。
- 縛らず、自由にすれば良いと思う

- 試験本番の緊張感を感じることが出来る貴重な合宿であるから2次試験対策の方がいいとおもいます
- 2次試験に対しては 前年度に受けた人との交流会が有効である。1日だけでもOKで宿泊は負担が大きい。
- 1次試験対策はWEB等でも可能
- 現地に足を運ぶのであれば、鏡検に力を注いだほうが良いと思います。
- 問題の傾向の情報があると準備が進めやすいのでは。（婦人科はLBCも含まれるか等）
- 合宿は、これまで通り1次試験対策としてはどうでしょうか？
- 1次2次両方の対策が良いと思います。標本作製法が各施設で異なり慣れない標本で受験するかたもいるので、2次試験対策を主としても良いのかもしれませんが。
- 受験対策なので、1次、2次の対策が必要です
- 1次対策で困っている受験生も考慮してあげるのはいいと思います。
- レベルの差がありすぎるため
- 実技は重要なポイントを知識として得た上で自分で反復するしかないのではないかとおもいます。

質問④ Web講義やWebフォトテストの可能性

130件の回答



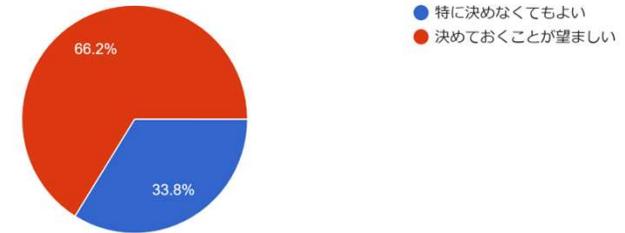
質問④に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）26件の回答

- 1次試験対策をWEBで代用すればよいと思います。併せて実技や技術的なことも動画で学べばよいと思います。
- 試験合格のための標本鏡検を重視し、それ以外のWeb講演は不要と思います
- 座学（基礎講義や写真問題解説など）はWebで。
- Webでの講義・フォトテストが可能であれば研修期間は2日間で合宿しなくてもよいかもしれません
- 2次試験対策であれば現地参加が必須。
- 合宿を行う主催者に大きな負担がかからない範囲で行うのが望ましい
- 近年、1次試験の難化が話題になっています。ある程度の症例を抱える施設では新しい概念に触れることができますので、絶えず知識の書き換えができると思います。これに対して症例が十分でない施設や偏った症例しかない施設では1次試験対策はなかなかできないのが現状ではないかと思えます。合宿（研修会）という短期集中型の教育でなく、1次試験対策としてwebセミナーなどで基本的な知識の取得が可能な場を設けることも必要なことではないでしょうか？
- 現地と異なりWebは参加が容易なため
- ハイブリッド形式が望ましいとは思いますが、県によって事情も異なるかと思えます
- 合宿中に講義があっていたように思いますが、ある領域に限定した講義なので、webを活用した講義をご検討ください。
- 合宿自体は2次試験対策とし、Webでの1次試験対策が理想ではないか。アーカイブとして過去の問題や講義を数年開ける体制も可能となる。
- 運営側としては準備の負担が2倍になるが、受講側にとっては選択肢が増えて良いと思う
- 参加希望したが、人数の関係で参加出来なかった人が、webでの講義すらも参加できないのは不公平だと思う。フォトテストの問題や解説は希望すれば郵送してもらえるが、鏡検に参加資格を得られなかった人にとってweb講義だけでも価値があると思う。

- ・ 講師の都合や状況によって決めると良いと思います。
- ・ 縛らず、自由にすれば良いと思う
- ・ 費用的に可能であれば、の意見です
- ・ 近年技師同士の交流会が少なく、試験に受ければ良い人が多いと感じます。先輩たちの話も参考になると思います。
- ・ web教材があることはありがたいと感じるが、その何倍も準備が大変なのかなあ...とも考えるため。
- ・ 受講したくても、人数制限にて現地で受講できないことがあるため。
- ・ 今回のようなパンデミックが起こったり、地震など、不慮の事例に対応できるようにしてはと思う。
- ・ WEB講義なら参加できる方も多いと思いますが、開催県のような都合があるから決めなくても良いと思います。
- ・ 顕微鏡の借用が困難になっている（費用を含めて）現在、Webは利用すべきであろう
- ・ 試験が鏡検する実技なので、現地参加が望ましいと思う。
- ・ 需要を拾い上げるという意味では重要と思います。いつでも見られるようにしようと思えばできますし。
- ・ 1次試験対策をWEB講義・WEBフォトテストで、2次試験対策を現地実施で行ってほしい
- ・ Web併用は、後から見返すことができるので併用のほうがよい

質問⑤ 同定・スクリーニング問題の症例数や時間の設定

130件の回答



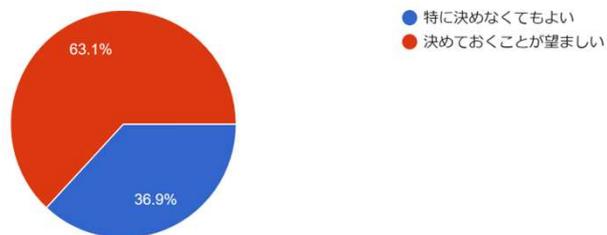
質問⑤に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）20件の回答

- ・ 2次試験に特化するのであれば、試験と同様に設定するのが良いかと思います。
- ・ 実際の試験を模したかたちでの体験がのぞましい
- ・ 各県開催のレベルに差があるとしたら必要なことだと思います
- ・ 毎年、同じ問題数と時間配分で行う。（2次試験に沿った形で）
- ・ 本番試験に合わせた形式が良いと思われるので
- ・ 試験対策であれば、それに沿ったあるいは類似した形式で行った方がよいと思われます。
- ・ 見直しの時間では、正答率の低かった標本に人が集まるので見直す時間が無かったとの声を聴いています。見直しの時間をもう少し長めに設けても良いのではないかと思います。
- ・ 症例数については、多くなると標本の準備が大変である。LBCを採用している施設が多いため、標本が集まらない。
- ・ 問題数・時間も大事ですが、同定・スクリーニングの実習後に受講者に対して質問を個別に受ける場と時間を設けることが大事だと思います。各々で習熟度が異なり、苦手なところもそれぞれです。全員を対象とした型通りの全体説明では個々の実力の醸成は困難だと思います。
- ・ 実試験に即した問題数がよい
- ・ 試験対策として、傾向と対策に重点をおいて、やったらと思う
- ・ 実際の試験に合わせた問題数が適切ではないでしょうか。
- ・ 試験に準じた規定で運用した方がよいと思う
- ・ 毎年、同じ条件にした方がよいと思います。
- ・ 傾向やスクリーニングの範囲などを考えてその時に決めれば良いと思います。
- ・ 縛らず、自由にすれば良いと思う
- ・ 準備担当県の細胞学会が決定することが望ましいと思います。

- ・ ある程度の目安は必要かもしれませんが、最終的には開催県が決定して良いと思います。
- ・ 実際の試験形式に合わせるのが望ましい
- ・ 開催県が決めてよいと思う。

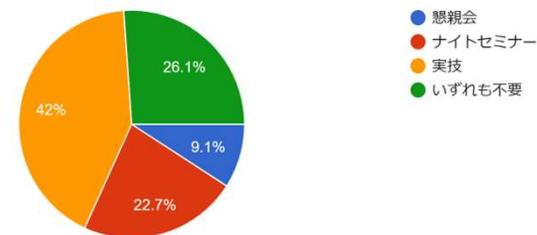
質問⑥ 懇親会・ナイトセミナー・実技のあり方について

130 件の回答



質問⑥で「決めておくことが望ましい」と答えた...る方は「いずれも不要」にチェックしてください

88 件の回答



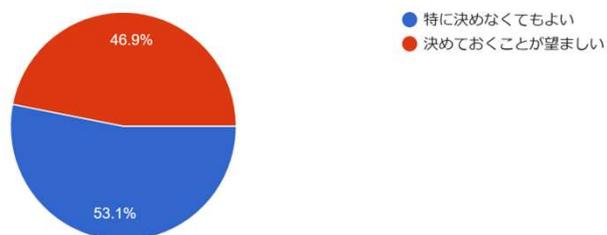
質問⑥に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意） 16 件の回答

- 宿泊を各自で取るのであれば懇親会やナイトセミナーを行う必要はないかと思います。実技は質問⑤で回答したように動画でも良いかと思います。
- 現在実技は行われていませんので、現状は不要と思われます。実技は疑似検体の準備などもありますので、各施設で個人で行うことが望ましいです。必要があれば、実技試験対策の動画を作成し、Webで流せばいいと思います。懇親会は交流の場として必要ですので、自由参加で行えばいいと思います。
- 研修会初日に懇親会をすることにより2日目からの研修が融和的になるので
- 当日の実習で気づいたことをまとめたけれど懇親会でできなかったという声もありました。個々で静かに復習する時間やリラックスする時間は必要です。
- 一泊2日なので、試験に向かって頑張れるのではないかと
- 本試験で実技が復活したら、合宿でも取り入れるべきではないでしょうか。
- 合宿参加者に実技のやり方を事前連絡し、各自練習してから試験を受けて欲しい。
- 小さい子供がいる方は、合宿(宿泊場所)や夜の懇親会などは選択性の方が参加しやすいと思いました。
- 実技は必要と思いますが、合宿の中でやる必要はないと思います。
- 縛らず、自由にすれば良いと思う
- 個人的には懇親会は不要だと思います。細胞診業務に携わり、他施設との関わりが重要になった時に懇親会を通してつながりをつくれればよいと思います。
- 合宿でのナイトセミナーは時間の有効活用という意味でも必要だと思います。せっかく高額な参加費を払って参加するので勉強に集中したいと思います。懇親会も大切だと思いますが、最近の受験生は飲み会より勉強したいと考える方も多いのではないのでしょうか。
- 1日あるいは2日の開催によって異なると思います
- 先輩から、ナイトセミナーが楽しかったと聞いて、たのしみしてたけど、なかったため。

- 開催県が決めてよいと思う。
- 先にも書きましたが、様式については担当の方のアイデアを実現しやすいようにあまり厳密に決めないほうがいいと思います。

質問⑦ 症例（ガラス標本）の共有化と症例提示講師の人選の基準

130件の回答



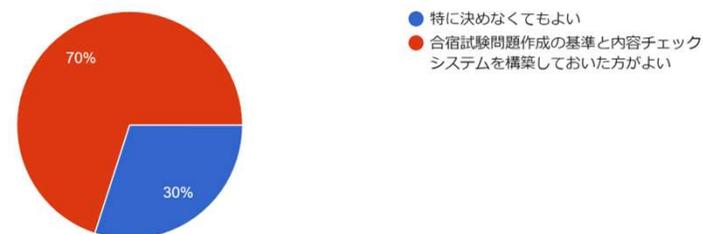
質問⑦に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）18件の回答

- 2次試験の模擬試験とするならば、標本を共有するのも良いかと思えます。各県の症例のバラツキも減るのではないかと思います。ただし、2、3年連続で受講する人もいますので3セット/年ごとの標本を入れ替わりに使用した方が良いかと思えます。また退色した標本は随時入れ替えていくようにしたらよいと思えます。
- 学術委員会が中心となって教育用セットが準備、更新されていくようなシステムをつくり、研修会の際などに必要に応じて利用できるようにする。
- 一定のレベルを確保するためには講師の人選は必須です。開催県レベルではなく九州内での確保も場合によっては必要かもしれません。
- 内容に関しては、過去の試験問題を参考に、担当県で決めればよいと思えます。ある程度の基準は必要と思えますが、決めてしまうと担当県の個性がなくなります。また、標本の共有化をすると、毎年同じ標本をみることになる（何回も受ける人がいた場合ですが）。
- 症例提出が容易な施設からの講師選出が可能になるから
- 共有化と人選が何を意味するかが分かりにくく回答しづらい。標本は各県持ち回り（イメージ的に九州共有）ということですか？
- 倫理的な問題もあるかと思えますが、各県の毎年の負担を考えると用意する方がよいと思えます。ある程度、典型例の標本を数枚ずつ確保して、合宿用のティーチングマップ2〜3セット作っておき、年別でセットを使いまわすという方法が良いのではないかと思考しております。
- 講師に関しては各県で決めればよいことだと思います。症例に関しては大部分は各県で行えばいいのですが、稀少例に関してはガラス標本の共有化が望まれます。可能であればバーチャル化で退色などの劣化に対応した閲覧システムが構築できれば各県の負担はかなり軽減されます。
- 硝子標本の施設外持ち出しが年々厳しくなっている。
- 個人情報保護の観点から貸し出し、共有は困難かと思えます。

- 標本の準備は大変と思えます。連合会全体で症例を共有するような仕組みを作って頂きたいです。
- ガラス標本の共有化は難しいのではないかと。
- 決めるの選出が難しい場合が生じると思われる。
- 症例によっては、手に入らない県がでてくるので共有化は賛成。講師の人選は自由でいい。
- 質問の意味がはっきり分かりません
- 病理標本とはことなりLBCであってもガラス標本の共有化は難しいのではないのでしょうか。提示する症例リストをマニュアル化することは賛成ですが、試験傾向にあわせたブラッシュアップは必要でしょう。症例や講師人数の決定は最終的に開催県に任せる。
- ある程度の基準や内容があると作成にあたり分かり易い。
- ガラス標本はいろいろなところから集めないといけないと思えますし、データベース化しておくのがいいかと思えます。

質問⑧ 合宿試験問題作成の基準と内容チェックシステムの確立

130件の回答



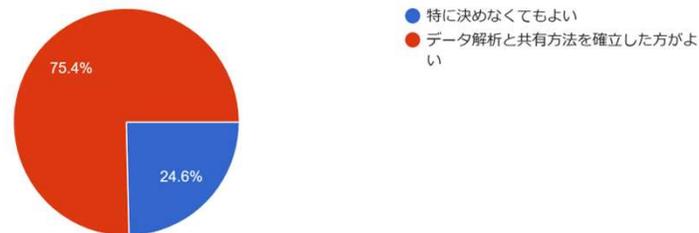
質問⑧に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）24件の回答

- 教育・精度保証などの委員会担当の方を中心に委員会の下部組織として合宿運営担当委員を配置してもよいのではないかと思います。
- 実際の試験に模した形がのぞましい
- チェック機構は必要かもしれませんが、誰がチェックをするかという問題が解決できないのでしょうか。開催県の臨床細胞学会会長が責任者である研修会をチャックして、もし不適切な場合は、差し替えを要求するというのは組織上難しいことではないでしょうか。チェックシステムを構築するのであれば、開催県に物が言えるような組織図を構築する必要があります。
- ある程度の基準は必要と思います。標本のチェックをするなら、県で持ち回りにせず、試験対策委員会（各県で一人ずつ選出してもらおう）などを立ち上げて、その中でやればよいと思います。
- 過去2～3年前の受験者からの試験内容の情報を収集することは重要かと思われるから
- 試験対策であれば、過去問題あるいは予想される問題の選別を事前に共有して持っておくべきと考えます。
- フォトテストなどは、同じ内容を使用してもいいかと思うので、ある程度の基準は必要かもしれない
- 各県の良識と自覚のもとに行えばいいことだと思います。
- 少なくとも症例の種類はある程度決めておいた方が宜しいかと思います。資格認定試験では殆どが典型例で、希少例の出題は少ないと思います。
- 合宿は連合会の事業なので、チェック体制の構築を望みます。
- 統一した基準があったほうが年ごとの比較ができる。
- 厳密な基準では、対応不可能な部分も出るかと思うが、ある程度の基準があった方が、年毎のばらつきが少ない
- 現状に沿った内容にチェックする。
- 縛らず、自由にすれば良いと思う

- 試験を受けた日に 空港でも 試験会場でも1時間くらい集まって覚えている問題をかいておく。受ける前に受験者で分担して婦人科 呼吸器が乳腺など分担した方が集中して覚える。次年度に受ける新人 あるいは落ちたときのためにもなると思う。
- 参加する回によってムラがあるのは 受講者としては不平等さを感じるため。
- 準備作業効率上がるような基準やシステムでしたら、お願いしたい。
- 今までは試験を受けた方の記憶を頼りに問題作成している状況でしたので、ある程度の基準があれば円滑に運営できるのではないのでしょうか。
- 運営側として作成基準はあった方がよいと思います。チェックシステムは、標本収集時に参考になるチェック項目があると収集提示しやすくなります。
- 昔、九州での講習に対して本部よりクレームがついたことがあり、柔軟性を持たせたほうがよいと思います。
- 但し難渋しない程度の基準があればと思う。厳しくない基準。
- データ共有などについても連合会をはじめ各県で供することが望ましい
- 受験生にとってはありがたいと思う。
- 「複数の細胞検査士と細胞専門医でチェックする」程度でいいと思いますが。

質問⑨ データの解析と共有方法の確立（九州連合会事務局へのフィードバックも含めて）

130件の回答



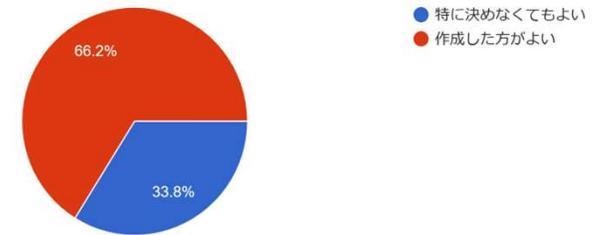
質問⑨に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）18件の回答

- 合宿が、2次試験の模擬的なものとするのであれば、毎年の受講生の傾向と評価、今後の対策をみていくためには必要なものであると考えています。
- 問題が適切かどうか、研修会が二次試験合格に有用かどうかなどは検証する必要がある
- 九州連合会でデータを共有する利点があるように思われません。
- 研修会参加者の試験の合否に関してはフィードバックするべきと思いますが、それ以外は手間と労力がかかるので、必要ないと思います。
- 受験者の試験対策に役に立つと思われるので
- 採点・解析には機材と解析ソフトが必要であり、これには費用や扱う技術も求められるため、九州連合会で共有できればと思います。
- 九州連合会が望むものによって対応が異なると思います。九州全体の大きな傾向を知りたいなら、提供は可能と思いますが、毎年の問題の難度やスライドの良し悪しに左右されますので良いデータになるかに少し不安が残ります。
- 毎回の合宿の点数と資格試験の合否を解析して、合宿の有用性を検討・改善し続ける必要があると思います。
- 理想としては共有化できると望ましい。
- 規定の手順で運営側の負担軽減につながれば良いと思う
- 次に行う県に引継ぎを行うときに指標となるものがあつたほうがよいと思います。
- 定性を、無理やり定量化すると現実とデータで乖離が起きるので、必要ない。
- 連合会事務局の業務が増えることは望みませんが、各県で数年前の情報を引っ張り出して実施することに疑問を感じるから。
- 何のデータかわかりませんが、過去問の傾向や受験者の苦手とするところ等のデータなら必要かと思ひます。

- データ解析（採点システム？）はもちろん確立されていれば便利です。データの利用法を考えた上でのフィードバックは賛成です。
- 開催県が決めてよいと思う。
- 何のデータでしょうか？参加者アンケートはやったほうが良いと思います。

質問⑩ 正答率・順位を含めた個人の成績表作成の必要性

130件の回答



質問⑩に関して、その他、ご意見がありましたら、お書きください（任意）22件の回答

- 受講生の苦手な領域の把握と対策、毎年の合宿のレベルが一定であれば、大学受験のようにABCDなどの合格判定にも使用できるかもしれないと思います。
- 正答率は自分でわかりますし、順位は必要ありません。この試験はある一定以上の基準に達していれば合格でき、個人の努力が重要となってきますので、本研修会は基礎レベルの研修会でいいかと思います。試験後の事も考えた、研修会も必要かと思えます。
- 受験者各個人のレベルが把握され以降の受験対策になるので
- はげみにもなるので、これはあったほうが良いと思う
- それぞれの個人で各分野の得点率を算定し、参加者全員に結果をお返しするべきです。これによりそれぞれの苦手な部分が浮き彫りになりますので、勉強の指標になると思います。
- 作業される方の負担を考えると、なくてもよいかと思えます。市販の問題集などで、自己採点も可能かと思えます。
- Q10では、個人情報法に抵触するのではないか、危惧がある。情報は対策に使えるかも。
- 受験生のモチベーション、現状の確認に繋がると思えます。
- 受講者の今後の研修の参考基準になると思う
- 名前の公開無しで、本人だけなら良いと思われそうです。
- 自由で良いと思う。
- 正答率を本人に伝えたら、順位や成績表は不要と考えます。
- 順位を出すことで、個人の意欲が上がるとは思えません。
- 自分がいかほどの実力があるのかを知ることが大切だとは思いますが、細胞診は周りとの勝負というよりと自分との勝負だと思うので順位を比較することに関して疑問がある。平均値くらいで十分なのは...
- 成績表を希望する受講者には開示したほうが良いと思います。
- 正答率のみで、順位はいらないと思います。

- 個人レベルの相対評価のために必要。
- 正答率と平均点は作成するが、順位は無くても良いと思う。
- 順位は無くても良いのでは。
- 個人の現状把握のためのものはあったほうが良いと思います。合格基準との比較は必要と思いますが、他人との比較は必要ないと思います。
- 試験は実力を競うものではなく、全員で合格を目指すものだと思うので順位は不要だと思う
- 順位の上位者をその場で発表することは不要と思う